

がん医療推進センターからののお知らせ

YouTubeで **市民公開講座**

令和5年度
地域がん診療連携拠点病院
唐津赤十字病院

視聴無料

がんと口腔ケア

2024
1/1日～3/31日

肺炎と口腔ケア
どうしてがんの手術前に口の中をきれいにするの？
唐津赤十字病院 歯科口腔外科副部長 緒方 謙一

ご挨拶
唐津赤十字病院 院長 宮原 正晴

視聴方法
配信期間内にYouTubeの「唐津赤十字病院公式チャンネル」からご覧ください
右のQRコードからアクセスするか、「唐津赤十字病院YouTube」と検索してください

唐津赤十字病院 がん医療推進センター TEL0955-72-5111

山田砂真子さまへ 感謝状を贈呈しました

令和5年8月30日(水)

山田さまは当院の患者さんのご家族の方で、約2年前から定期的に手作り帽子を寄贈してくださっています。こちらの帽子は、抗がん剤治療等の影響で髪に悩む患者さんのために作られたもので、肌触りのよい優しい作りになっています。編み目模様や形もさまざまで、男性が使いやすい色味もあり、細やかなお心遣いを感じられます。帽子は希望された患者さんにお渡ししていますが、大変好評です。今回はその喜びの声と謝意をお伝えるため、宮原院長より感謝状を贈呈しました。やさしさあふれる山田さまの雰囲気、同席した職員もあたたかい気持ちになりました。帽子は8番窓口に飾っていますので、みなさんもぜひご覧ください！



みらい

唐津赤十字病院広報誌



2024 Vol.32
January
第32号

We hope a "Bright Future" 地域の明るい未来を願って

令和5年九州北部豪雨災害

7月 令和5年7月10日(月)未明に発生した線状降水帯によって引き起こされた「令和5年九州北部豪雨災害」。非常に激しい雨が短時間のうちに唐津市から脊振山系に係る北部地域、そして、鳥栖市周辺の東部地域を中心に降り続き、各地で河川の氾濫や土砂災害が発生。また、唐津市浜玉地区では人的被害が出るなど大きな被害をもたらしました。発災から2日後の7月12日(水)には唐津市災害ボランティアセンターが開設され、さらにその2日後の7月14日(金)より災害ボランティアの受け入れが始まりました。一刻も早い復旧復興に向け、当院看護師2名が10日間ボランティアセンターへ派遣され、センター内に設置された臨時救護所において、災害ボランティアの健康管理、熱中症やケガ等の手当てなどを行いました。



ACTIVITY REPORT

活動報告

7月～8月

キティちゃんが訪問してくれました

8月 この活動は、株式会社サンリオ様による社会貢献活動“Sanrio Nakayoku Project”の一環であるCharacter Aid(キャラクター訪問による心のふれあい)として実施されたものです。株式会社サンリオ様は病気や障がいと闘っている子どもたちをはじめ、多くの人々を応援するため、全国の病院などを訪問されており、今回はキティちゃんが8月2日(水)に当院の小児科病棟へ遊びに来てくれました。当日はキティちゃんが入院中のお子さんの病室をサプライズ訪問し、ギフトをプレゼント♪キティちゃんのおかげでお子さんはもちろん、保護者の方や職員みんなが笑顔になりました。キティちゃん、遊びに来てくれてありがとう。またお会いできるのを心から楽しみにしています。



感染拡大防止へのご協力のお願い

日頃より当院をご利用いただくみなさんには、検温や面会制限、マスク着用などの感染症対策にご協力いただき、誠にありがとうございます。今後も感染対策へのご協力をお願いいたします。

- | | | |
|---|--|---|
| <p>基本理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 安心な医療 ■ あたたかい看護 ■ 地域への貢献 | <p>基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 患者さんの人権を尊重します。 ■ 救急医療やがん医療の充実に努めます。 ■ 災害救護に貢献します。 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 質の高い医療と看護を提供します。 ■ 地域医療連携を推進します。 ■ 健全で安定した経営基盤を確立します。 |
|---|--|---|

地域の急性期医療にたずさわる立場から、国際災害救援まで

令和6年1月1日に発生した能登半島地震の災害対応として、日下医師を含む救護班1班を1月13日から被災地へ派遣しています。詳細については、次号でご報告します。

写真提供/JICA

はじめに

2023年4月から当院救急科に赴任しました、日下あかりと申します。地域の皆さまを守る急性期医療にたずさわる立場から、今回は救急科、災害時などに分けて一部をご紹介します。また、私は2023年2月のトルコ・シリア地震に国際緊急援助隊として派遣された経験があり、国際救援についてもお話しさせていただきます。

救急科の取り組み

当院は地域の救急医療の一角を担っており、2008年7月に救急部が発足、唐津市消防本部との連携を強化するための「救急ホットライン」を整備し、2009年4月に地域救命救急センターとして開設しました。ときには佐賀県ドクターヘリと連携して、患者さんを受け入れたり、継続して治療が必要な患者さんは当院から他院へ転送したりすることもあります。また海が近いことから、海上保安庁のヘリコプターで救出された患者さんを受け入れることもあります。

スタッフの育成のために、急変対応や外傷対応など、院内外において講習会も行い、普段の救急現場での診療に役立てています。



海難事故後、海上保安庁のヘリコプターで救出された患者の搬送の様子

災害時には

日本赤十字社の活動の中で災害救護は大きな柱となっています。また当院は佐賀県北部医療圏の地域災害拠点病院およびDMAT病院に指定されており、県内外の災害に救護班およびDMAT班を派遣し、被災地の医療支援を行います。

私自身も日赤病院に勤務する前から、災害救護に携わってきました。島根大学病院DMATとして2016年の熊本地震、県立広島病院DMATとして2018年の西日本豪雨で活動しました。普段からの災害の備え、災害が起きた後は消防・警察・医療など多機能の連携が重要になります。

トルコ・シリア地震における国際緊急援助隊の活動

私は幼い頃にイギリスに2年ほど家族で住んでいた経験があり、何か世界に関わる仕事がしたいという漠然とした思いを持っていました。医師となり、救急や麻酔の分野で海外の学会へ参加し海外の医師と交流したり、前述の熊本地震に日本DMAT隊員として災害医療を経験したりし、少しずつ海外の災害に目が向いていきました。海外で災害対応をする団体は数多くあり、その中でも日本政府としての国際緊急援助隊の活動に興味を持ちました。当時所属していた島根大学麻酔科の教授や病院長にご相談し、JICA国際協力機構と契約を結び、島根県では初めての登録医師となりました。

私は2つのチームに登録されています。1つは「医療チーム」。医師や看護師、検査技師、放射線技師、理学療法士など病院のいろいろな職種で構成され、海外の野外テントで外来や入院施設を整備し、被災した方々の診察や治療を行います。もう1つは「救助チーム」です。救助隊員（消防・警察・海上保安庁）や構造評価専門家（建物の危険度を評価する建築の専門家）、災害救助犬などから構成されます。

今回のトルコ・シリア地震では救助チームの医療班として、真っ先に救助隊員の方々と共に瓦礫の現場に向かいました。救助隊員は倒壊家屋の下敷きになってしまった人（要救助者と呼びます）を救出するため、救助犬の捜索やカメラ・レーダー器械などを使いながら瓦礫を掘り出し、ときには24時間以上の連続した救助活動を行いました。救助チーム医療班の医師である私の役目は主に二つあり、その一つは、このような過酷な現場で活動をする救助隊員の方々の健康管理です。

疲労が蓄積する中でも怪我をしていないか、食事の準備をし、食事は取れているか、交代で休息も取れているかなど確認します。それに加えて、要救助者が見つかったなら、救助隊員が要救助者の体の状況を観察し、怪我の状況や体温、バイタルサインなどの情報を得て、他の医療班隊員と相談した上で、保温をしたり、手足の固定をしたり、点滴や薬剤投与の処置をしたりします。最終的に瓦礫の中から救出し、地元の救急隊や病院に引き継ぐまで、救助活動と医療行為の連携を行いました。

今回トルコで活動した日本チームが関わった活動のひとつに、瓦礫の中から130時間を超えて救出された6歳の女の子がいました。体力は弱っていましたが、会話は可能で、抱き抱えられて、救急車に運ばれました。私は通訳の方と一緒に救急車に乗り込み、聴診器を当て、大きなお怪我がないか診察をし、救急隊の方と点滴を取ったり、情報を共有したりしました。その後、女兒が地元の病院に搬送される様子を見届けられ、医師として安堵しました。海外の災害に派遣されたのは今回が初めてで、大変貴重な経験をさせていただきました。今まで、瓦礫による狭隘空間等において日本の救助隊員の皆さんと訓練を重ねてきましたが、いかに普段から真剣に色々なことに取り組むか、それらの全てが本番の現場に繋がっているかを実感しました。



写真提供/JICA

最後に、地域を支える当院において市民の皆さまのご健康を守るため、私としても様々な場面で貢献できるよう精進して参ります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

唐津赤十字病院 救急科

日下 あかり

プロフィール

profile

- 大阪府 出身
- 島根大学医学部 卒業
- 日本救急医学会 専門医
- 日本麻酔科学会 指導医
- 日本DMAT隊員
- 日本赤十字社救護班
- 国際緊急援助隊 救助チーム、医療チーム本登録隊員



院外でのオンライン講演のポスター
院内研修の様子

